

地域アクションプランに関する意見交換の状況

資料5

高幡地域	主な意見 (※下線は具体的に検討する取り組み)	
須 崎 市	【農 業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異業種との交流がしたい。 ○ 厳しい零細農業等にも行政が力を入れてほしい。 ● みょうがの養液の排液対策に支援をお願いしたい。
	【水産業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 須崎の新鮮な美味しい魚を食べられる施設がほしい。 ● 漁業者がほしい種苗の放流をお願いしたいが市外からの密漁者に対して漁協や市は取り締まれない。県にお願いするしかない。 ● 区域を決めてアワビや流れ子を放流すれば密漁対策にもなりいいのではないか。 ● 魚を食べるところは、いちばん船でふるさと雇用を使いマグロを中心とした須崎の魚の加工や10月にオープン予定のマルナカの産直の一部に魚のスペースをつくる話があるが、漁協の合併がないと難しい。
	【商工業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一次製品の販売だけでなく、加工場があればいい。
	【観 光】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人を集めるために核となる拠点が必要。人が集まる場所を作って、生姜アイスやみょうががジャムを売っては。 ○ ふるさと博、龍馬博に須崎のことが載っていない。須崎のことも載せてほしい。 ○ 首切り地蔵の銅像がほしい。 ● 体験観光について、雨の日の体験(メニュー)が課題。
	【分野共通】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 須崎を魅力ある街にし、須崎のことを知ってもらうことが必要。 ○ 人に来てもらうシステム、仕組みが必要。 ○ 人を呼ぶ前に、地域の人が楽しいことが必要。 ○ 若い人に須崎に残ってもらうように、仕事など生活の基盤が必要。 ○ 一番市民が興味がある防災の考えを取り入れたまちづくり。城山に避難道や建物をつくって、避難場所を兼ねた人が集まる場所、市民がいつも行ける施設があればいい。ローンをしてでも必要。 ○ 地域に自信を持たせるために食育の徹底した教育が必要。 ○ 補助金等で柔軟に使えるお金がほしい。 ○ 向かっていく目標が必要。 ○ 誇れる須崎を作るために、面白いを儲かるに繋げていくことが必要。 ● もう少し有害鳥獣対策の適正化が図れるように狩猟税をなくしてほしい。 ● 地域アクションプランの振興にかかる連携の強化。
梶 原 町	【農 業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちに農の大切さを伝えるための体験。 ○ 町内産の米や野菜のブランド化。 ○ 赤身の評価が高い赤牛のPR。
	【林 業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 林業は1年でなく、長期で考えることが必要。 ○ 高知県の高い林業の技術を受け継いでいくことが必要。働く場の確保と技術者の育成。 ○ 被災地に木材を提供するくらいのPRが必要。 ● バイオマスは、経済面では大きな課題がある。エネルギーの需給を考えると補助金がないと困難。 ● バイオマスは、技術や灰の問題など簡単でない。灰の問題は県の裁量でもあるので、協力してほしい。 ● ペレット製造機器は、「ものづくり」にもリンクするがメーカーを育てる意味でも産学官の連携を進めてほしい。多方面での協力をお願いしたい。
	【商工業】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乾燥シイタケや乾燥ゼンマイの加工品づくり。
	【観 光】	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境や自然エネルギー、セラピーロードなど癒しの町として他でやっていないことをやり、観光と交流人口の拡大が必要。 ○ 町の垣根を越えて結ぶ観光振興が必要。 ○ 梶原に入ってくる前に客を呼び込むようなものを出すことが必要。 ○ 植林の中にある集落跡の観光への活用。

高幡地域	主な意見 (※下線は具体的に検討する取り組み)
橋原町	<ul style="list-style-type: none"> ● ホビー館の集客力をどう高幡地域に広げられるか。 ● 四万十川すみずみツーリズム連絡会の事務局である四万十川財団について、県の姿勢は。もっと中核になってほしい。 <p>【分野共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経営者の能力開発が必要。 ○ 一つの産業が大きくなるのではなく、小さなものがたくさんできるのがいい。 ○ 一度町を出た人が外の空気を吸い、人脈を作って帰ってくる仕組みづくり(受け皿づくり)。 ○ あちこちでいろいろな活動をしているグループのネットワーク化により他でやっていることを知っていることが必要。 ○ 農林業でも技術や知識を示し、差別化を図るための免許制度が必要。プロとしての自信や誇りにも繋がる。 ○ 生産者と消費者との繋ぎの他、観光コンシェルジュなどを担う利益に縛られずに動ける人が必要。 ○ 通年雇用が必要だが、公共工事の時期と伐採の時期が重なっており、公共工事の発注時期の可能な限りの変更が必要。 ○ 勉強する場の会場が高知市ばかりなので、橋原で、せめて須崎市での開催をしてほしい。 ○ 農業と婚活。観光と嫁探しを繋げてやりたい。 ● セラピーはドイツでは医療保険で対応できる。保険が使えるように持っていければよいので、県と一緒に制度変更をお願いしたい。病気等の予防としての機能もあるので、予防としても位置付けられるとよい。
津野町	<p>【農 業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定年を迎えた子が帰ってくる仕組みづくり。 ○ 高齢になっても仕事ができる状態をつくるのが大切。 ○ 季節的にたくさんできた時には加工して端境期に出荷する仕組みづくりなど、作ったものは全てお金になる仕組みづくり。 <p>【林 業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 高知県は森林環境税を真っ先に導入した県であり、全国に先駆けて山を守る対策が必要。 ○ 林業政策に関しては、絶対にかえれないぞ！といった長期的な視点が必要。山の木が少しでも出ていけるような需要を図る取組が必要。 ○ 林業の実態を知ってほしい。 ○ 間伐材を使用した木製ハウスや木製の机等の利用。 ○ 山を活かす仕組み。コンボ等の機材投資への補助。 ○ 作業道の整備や切り捨て間伐も必要。 ● 木材を使ったものづくり、外商を県が力を入れて引っ張ってもらいたい。 ● 当町では小学校の木の作成を商工会が窓口になり、町内の大工に参加を要請している。県の中で完結できる仕組みづくりができないか。 ● 高知で製材、加工し、拠点へ送るシステムができるとうい。 ● 県外には高知から行った大工もたくさんいるのでPRしたらよい。 ● 木材の振興がないと中山間はやっていけない。建設関係の経費の8割が資材代。工法等の検討を行い、もう少し地元へ金が落ちる仕組みができないか。 ● ベレットが伸び悩んでいる理由は何か。将来的な活用は県としてどのようにとらえているのか。 ● ベレットについて、間伐材をわざわざ出してやる意味はあるのか。将来どのくらい価値が出てくるのか。 <p>【観 光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 四万十源流点のPR。 <p>【分野共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 老人ホーム等施設に入所する前の元気な待機者の呼び寄せ、定年退職した介護士が若い人に教える仕組みづくり。老人ホームに入らない、入れないといった人を対象にした滞在型の施設があれば。 ○ 地域みんなが携われる作業場、携わっていける場づくり、出てきたらちょっとしたお小遣いになる仕組みが必要。 ○ 一人でも一生懸命取り組んでいたら目をかけてほしい。 ○ 何かをやらう！とした時にあまりにも小さな網がかかっているとやる気が削がれる。小さな取組、個人の取り組みでも拾い上げる仕組みが必要。 ○ 外から見た人間からの地域資源への提案が必要。

高幡地域	主な意見 (※下線は具体的に検討する取り組み)
中土佐町	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 農産物、加工品を販売できる場所が欲しい。 ○ 四万十川源流で収穫できる大野見米として、付加価値をつけて売っていききたい。高い品質の標準化を図るため、選別機械を導入したいが支援はあるか。また、何よりプロセスを支えてくれる人が欲しい。 ○ 有機栽培で全体的なイメージ戦略をつくって打っていききたい。
	<p>【林業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の資源を活かして、桧オイルを抽出している。県外業者と共同で新しい事業所を設立して雇用を増やしたい ○ 森林組合が産業振興計画に関わっている姿が見えづらい。生産者の顔が見えるような林業ができないか。林業に携わる人が林業に誇りを持てるように、中山間地域が計画に誇りを持てるように。
	<p>【水産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● スラリーアイスの取り組みでは、商売がこれほど難しいと思わなかった。産業振興計画がなければ取り組んでいない事業であり、もう少し時間をいただきたい。 ○ 上ノ加江漁業体験は、年1000人程訪れており、今後は修学旅行など営業面に力を入れていく。
	<p>【商工業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 24年度以降はパートを含め50名位見込んでいる久礼新港背後地利用計画の推進を着実なものとしていく。
	<p>【観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 取り組みは、今いる人や外から入ってきてもらいながらやっていくことが必要。都市部との交流の観点も重要。 ● 都会からみれば四国はひとつ。その現実のなかで1ブロックで観光の広域組織をつくるより、県全体で情報収集し、必要に応じた調整、連携をとるべき。 ○ 大野見を紹介できる半日コースや大野見米を食べるところなど、大野見版まち歩きマップが欲しい。 ○ 黒潮本陣の目的は、町外のお客さんをもてなすこと。海の見える景色や美味しい食材、漁師たちの雰囲気を組み合わせてできることを考えたら人や自然、全てにやさしい街づくりが街おこしの近道。
	<p>【分野共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 体験メニューや食、自然など色々な資源の組み合わせがあると思うが地元の人が地元のいい所をまずは知ってもらうことが大事。 ○ 資源の組み合わせや取り組みを進めたい時に、コーディネートする人がいない。地域おこしは「人」である。 ○ 海の幸、山の幸などいいものが豊富にある。中土佐町内の季節ごとに旬のものを選んでまとめてPRしたいと思う。 ○ インターンシップで学生が数人来たが、色々な体験をさせて学生も楽しみ、地元農家も楽しんだ。青年が来るというのは宝、町に活気が出る。ボランティアでも体験でも何でもできる地域に。 ● これからの事業展開には、新エネルギー、省エネルギーの視点が大切。 ● 高速道路の延伸を1つのステップとして、過大な事業展開ではなく、今あるものを活かし、少しずつ変化をつけて改善しながら進むことが大事。 ● ふるさと雇用基金事業の後の手当ては何かあるのか。 ● フォローアップ会議の持ち方については、首長のみや担当課長のみ、あるいは分野別など焦点を絞って話を深掘りしたほうがよいのではないか。 ○ 若い人が住める、外から人が呼べる地域にしたいと同時に、地域に暮らしている高齢者が生きがいをもって働ける地域にすることが大事。
四万十町	<p>【農業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地元産品の付加価値や新たな雇用及び地域の活性化を図る取り組みとして、地域資源活用プロジェクトの協議会を立ち上げ、農畜産物の加工施設の整備を検討する。 ● トマトの加工品を考えている生産者がおり、手助けできればと考えている。 ○ 価格の安い2番茶の紅茶づくり。紅茶の加工所の規模が小さく、製造量を確保できない。 ○ 直販市を拡充し農家レストランを追加することを計画している。 ○ 中山間地域では小さな1.5次加工場がたくさんあり、小さな経済が生まれ雇用が生まれる形のほうが小回りがきいていい。高齢者が働け、生きがいも持てる ○ 畑の八百屋さんの考え方で食材の加工や高速道延伸に向けた観光部門などに取り組み、法人を多角的な形にしていきたい。 ○ 法人化によりある程度の地域の働き場ができた。自分たちがいなくなっても地域を守るため、集落営農の法人化により、いかに継続していくかが次のステップ。 ○ 共に農業をする若い人たちの独立を支援。年配者から学んだ栽培方法や面白さを引き継ぎ、産業として成り立つ仕組みづくりに取り組んでいる。次の世代のひとづくりには、それをつくる魅力ある人を作る場が必要。 ○ 高齢者の日々の生活を手助けできるよう法人化を目指している(おかみさん市)。年との交流によってもお年寄りを元気にしたい。 ○ 新規就農を支援しているが、行政で農地や空屋情報をまとめて提供してほしい。 ○ 農産物や加工品を販売する際、表示や販売の規制、国の関連法などに精通したアドバイザーが欲しい。素早い情報とアドバイスをいただけるよう、近くに欲しい。
	<p>【林業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高幡ヒノキについては、四万十市、中土佐町、三原村と協定を結び、森林組合を含めた協議会をたちあげ、四万十ひのきとしてブランド化を図る方向に変更 ● しいたけは、十和一大正一窪川と広げていきたいが、旧の町村単位は現実的。小回りのきくアクションプランの展開ができれば。 ● 町産材の利用促進については、町独自でも事業を行っており、昨年度も予算が不足するくらい利用があった。(25件の実績。1件につき町1,500千円+県)

高幡地域	主な意見 (※下線は具体的に検討する取り組み)
四万十町	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の林家がいかに仕事に携わり収入を得るか、その中でいかに魅力を感じてしっかりと意を持って生活できる人を作るか。 ○ バイオマスボイラーの購入費が高い問題に本気で目を向けて欲しい。は材はたくさんあり、少しでも換金され、山への関心が高まり、山を見る目が変わると、農林が連携した形で地域の経済が回る。 ○ 今の計画には入りづらい。もう少し下(地域で暮らす者)におろして欲しい気がする。 ○ 西日本に400年の森づくりに取り組んでいる産地があった。ビジョンがあつての振興なので、長いスパンでどういう森づくり、守り、残すのか計画にしっかりと落とし込んで欲しい。
	<p>【水産業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● シイラは高知ではイメージがあまりよくないが、関東は悪いイメージがない。東京で取引の話が出ている。 ○ 興津と志和にしかない漁場を活かす方法が何かあるのではないかと。町と県から力を貸して欲しい。 ○ 地区に元気がなく、高齢化の人手不足で昆布祭りの継続で精一杯。何とか元気を与えたいと対応できない。 ○ 須崎市の大谷漁協と連携、志和の女性部で昆布の加工販売を引き受けている。志和の天ぷらをつくりたいが、作業場や保管設備が必要。出資をしようという元気な人もいない。行政に支援してもらいたい。
	<p>【商工業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ものづくりをテーマに海洋堂ホビー館四万十と連携した商店街の活性化をやっていききたい。 ● ホビー館のオープンを契機に商店街の活性化を図りたいが、核がない。窪川の中心にホテルが欲しい。
	<p>【観光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 海洋堂ホビー館近くに何もなかったため滞留が1時間程度でお金が十分落ちていない。今後地域への波及効果を生み出していく。 ● 町内に第2のホビー館構想があり、できるだけ早い時期に方向性を決めていきたい。 ● 四万十町まるごとミュージアム構想への取り組みを検討しており、ホビー館効果を活かす、滞在型観光への取り組みを進めていきたい。 ○ 県が謳う4つの体験テーマだけでなく、体験型コーディネーターの普及が今後の課題。 ○ グリーンツーリズムを行う農家民宿が流域的に連携していこうとすることに対して県の事業経費の手助けが充分でない。 ○ グリーンツーリズムと観光の違いを見極め、農家の副業であってもビジネスの1つとして行政にも担当を置いてもらいたい。 ○ 地域を10年後も残すため、田舎に住みたい希望を持って農家民宿に来る県外のお客さんを移住に繋げ、1ターンの増やしていく。 ○ 中山間地域の存続には、空屋対策が必要で行政が責任を持ってコーディネートして欲しい。 ○ 魅力的な地域づくりには、地域の中に小さなビジネスをつくり、互いに連携して地域で経済が自立することを目指すこと。
	<p>【分野共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと雇用終了後の県の支援は。 ● クラインガルテン四万十の2期工事(7棟増棟)はどうなっているか。 ○ 県内各市町村の食をまるごと高知のメインに、また産業振興計画のメインに打ち出していったらいい。 ○ 浅く広くではなく、高知県にとって何が1番大事か見極め、重点的に取り組むことが必要。 ○ 小水力発電について、県の方向性と具体的な推進計画を知りたい。 ○ 地域APごとの評価を示してもらいたいこと、評価は一目でわかるようにして欲しい。 ○ 産物のPRだけでなく、人との交流でどう人を繋げ、高知へ連れてくるかというチャンネル、支援が必要。 ○ 行政が全てに支援するのは困難。評価された地域や団体がまわりを引き上げていく形を作ることが大切。事業者同士、地域間、産業間と横の繋がりが生まれ、相乗的に底上げができていくことが狙いではないか。 ○ 世代交代の時期。若い力が残っていく産業がある。各地区にリーダーを育成していく活動とそれを支援していくことが1番重要。 ○ 異業種の同世代の情報交換、交流の場があれば連携でき、底上げに繋がる、10年20年後に地域の大きな財産になる。